



決算審査特別委員会

審査レポート

**子宮頸がんワクチンの
キャッチアップ接種、
48・7%が接種完了**
総務文教分科会 野崎久雄 主査

Q 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種の接種状況はどうか。

A 令和6年度末までに2067人、48・7%が接種を完了した。

Q 小学校6年から高校3年相当が対象の定期接種は、どの程度周知されているか。

A 令和6年度における定期接種の接種者は479人、25・1%であった。小学校6年時に接種券等と併せて案内を個別送付するほか、受診勧奨のはがきがきっかけになることが多いため、接種者が多い夏休み前にはがきが届くよう送付し、接種率向上に努めていきたい。

Q 産後ケア事業は、短期入所型、通所型ともに利用者が増加しているが、本事業が周知されたことによるものか。

A 産科医療機関等への周知に加え、令和5年度から利用料金を実質

無料としたことも増加の要因と捉えている。

Q 諸橋敏次博士奨学金は、返済する必要のない給付型より、返済しなければならぬ貸与型のほうが執行率が高い。この現状をどう捉えているか。

A 高校生等奨学金に関しては、周知のため、さまざまに手を尽くしているが、給付型の申請が伸びていない現状に鑑み、利用する側のニーズと制度の内容に乖離が生じていないか、周知が行き届いているか検証し、改善に努めている。

認定第1号について、賛成多数で認定すべきものとした。

**燕三条・下田アウトドア
ライナーの運行終了と
今後について**
市民福祉分科会 馬場博文 主査

Q 公共交通推進費の燕三条・下田アウトドアライナーについて、どのような経緯で令和6年12月末での運行

終了に至ったのか。

A 令和5年10月に運行を開始したが、1日当たりの利用者数が令和5年度は6・6人、令和6年度は7・9人と、目標の25人には及ばず、費用対効果を踏まえて運行を終了した。

Q 三条地域への交通手段が減少したことを受け、下田地域の足の確保をどう考えているか。

A 幹線の路線バスを継続するため、運行する越後交通への補助を引き続き国、県と共にやっていく。また、デマンド交通を組み合わせることで、通院や買い物に利用してほしい。今後も人口減少社会に合わせた公共交通の在り方を検討していく。

Q 市民総合窓口で令和7年1月から新しいシステムが稼働したが、利用者の反響や職員の負担軽減についての効果はどうか。

A 来庁予約が可能となったことで待たせずに窓口へ案内できること、一部の事務はオンラインにより24時間申請可能になったことは利用者から好評を得ており、いずれも利用率が上昇している。また、来庁予約によりあらかじめ準備を整えることができるため、手続き時間の短縮や職員の心理的負担の軽減につながっている。

認定第1号について、賛成多数で認定すべきものとした。

**水道事業の有収率向上を
目指し引き続き漏水調査を
実施**
経済建設分科会 白鳥賢 主査

Q 鳥獣被害防止対策について、猿被害が多いため、農業への意欲がなくなる人もいる。対策に力を入れるべきではないか。

A 猿の活動範囲が広がり、個体数が増える中、電気柵の設置や地域での追い払い活動、緩衝帯の整備など、総合的に取り組むことが重要と考えている。引き続き、猟友会、警察、自治会などの関係団体が連携する鳥獣被害防止対策協議会の取り組みを推進していきたい。

Q ★ サウンディング型市場調査を実施し、いい湯らていのリニューアルを検討している中、経営支援金の今後の方向性をどう考えているか。

A いい湯らていリニューアル後は、今とは異なる形で経営や運営が行われることが想定される。そこを見極めながら、総合的に議論して判断する。



決算審査特別委員会 採決の様子

認定第1号および認定第2号について、いずれも全員異議なく認定すべきものとした。

Q 水道事業会計について、下田地域の有収率が69・8%と7割に満たない中、漏水の状況をどう把握しているのか。また、市として有収率の目標はあるのか。

A 令和5年度に人工衛星を活用した漏水調査を行い、大まかな漏水箇所を特定したことから、現在追跡調査を進めている。また、有収率は、市全体で90%以上とすることを水道事業ビジョンに目標として掲げている。

行政視察報告

ぎいん見聞録

議会運営委員会

令和7年7月15日（新潟市）

◎佐藤和雄 ○燕 幸男
岡田竜一 馬場博文 白鳥 賢
野崎久雄 藤家貴之 武藤元美

一般質問、代表質問等の 運営について

新潟市議会では、当市議会と同じく、一般質問の質問方式を一括質問、一問一答、分割質問の3つから選択する。一方、質問時間を30分以内とした上で答弁も含めて60分以内をめどとしていること、答弁は1回目を演壇で、2回目以降を理事者側の席に近い答弁台または待機席で行うことなど、当市議会とは異なる運営が行われている。

運営方法は議会によってさまざまであるため、一般質問、大綱質疑の在り方等を検討している当委員会にとって大変参考になった。

タブレット端末の活用状況について

新潟市議会では、令和5年2月定例会からタブレット端末の使用を開始し、令和6年2月定例会以降は完全ペーパーレスで運営を行っている。ペーパーレス会議システムの活用状況、端末の導入に際して定めた使用基準の内容等について、実際に端末を操作しながら説明を受けた。

当市議会におけるタブレット端末の導入に向けた検討が大詰めを迎える中での行政視察であり、各委員は熱心に質疑を行った。



委員会室にて説明を受ける

三条市議会を見に行こう！



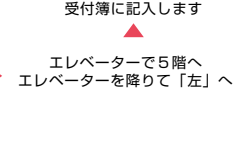
三条市役所三糸庁舎



三糸庁舎正面玄関



受付簿に記入します



エレベーターで5階へエレベーターを降りて「左」へ



傍聴席からの議場

開催日は、市ホームページ、市議会だより等でお知らせします。